

## 復興へのあゆみ vol.17

復興に向けて一。あゆみを進める人を紹介します。

### 災害を乗り越えてこそその つながりを活かす

平成30年7月豪雨により被災した本市は、コミュニティ強化や市の魅力向上など、宇和島の将来を見据えた創造的復興を目指すため、同年10月に(一社)RCFと「宇和島市復興まちづくりに関する連携・協力協定」を締結しました。この協定に基づく外部人材の登用として、(株)ウインウインと地域おこし企業人派遣協定を締結し、2代目現地駐在員として令和2年4月から橋本さんが本市で復興に取り組んでいます。

現地駐在員としての取り組みは、若手農家を中心とした担い手チームづくりや、復興にかかる中間支援組織の立ち上げなどです。福島県出身の橋本さんは、中学生のときに東日本大震災を経験しました。その経験から、地域のために働きたいという思いがあったそうです。大学卒業後現在の会社に入社し、最初の1年間は業界のノウハウを学びました。2年目からは復興支援関係の業務にあたるようになり、地元福島に関わる仕事を体験しました。そんな中、本市とのつながりを知り、すぐに宇和島行きを希望したそうです。

改めて宇和島の状況を知ると、地域のために何かしたいという思いが強まる中で、の新型コロナウイルス

## 災害復興掲示板

本庁 ☎24 - 1111

吉田支所 ☎52 - 1111

三間支所 ☎58 - 3311

津島支所 ☎32 - 2721

宇和海支所 ☎62 - 0311

※詳しくは、お問い合わせください。



現地駐在員 橋本 健太 さん

### profile

平成30年7月豪雨を受けて(株)ウインウインと締結した「地域おこし企業人派遣協定」により、2代目現地駐在員として宇和島市に派遣されました。

## 平成30年7月豪雨

宇和島市災害記録誌制作に寄せて

「あのときの声、あのときの想い」募集

忘れないでほしい、覚えていてほしい、誰かに聞いてほしい、あのときの記憶を後世に届けられるように…。宇和島市災害記録誌に掲載する、皆さんの伝えたい声を140文字以内で募集します。

【募集内容】平成30年7月豪雨で被災したときに、感じた想いや後世に伝えたいことなど

【対象】本人もしくは身近な人が被災した人や平成30年7月豪雨により本市と関わりを持った人

【募集期間】11月1日(日)～令和3年2月28日(日)

【応募方法】市役所、各支所に備え付けのアンケート用紙に記入し回収ボックスに入れるか、Web専用フォームから申し込んでください。



あのかつてない大きな災害の経験は、私たちの忘れられない記憶として刻み付けられました。その記憶を後世へと伝え残し、未来に役立てられるように。皆さんの声をぜひお寄せください。

【問合先】佐川印刷株式会社(平成30年7月豪雨 宇和島市災害記録誌制作業務受託事業者) ☎089-925-7206

### 防災シンポジウム(仮)

無料

【とき】11月8日(日) 午前9時30分～午後3時

【ところ】コスモスホール三間

【内容】

- ▶高校生主体の防災シンポジウム
- ▶消防士指導によるロープワーク
- ▶自衛隊活動展示・見学
- ▶防災トイレ展示・見学
- ▶消防署によるけむり体験 など

※内容は変更となる場合があります。

【問合先】宇和島NPOセンター ☎☎49-3563



会議では積極的に意見交換を行います



新規就農者向けの講習会を開催



前任の亀山 央 さんも、雇用創造協議会セミナーの講師を務めるなど今でも宇和島に関わってくれています

ルスの感染拡大。赴任したばかりは人と会うこともままならず、何もできないもどかしさを感じる毎日で、とても苦労したそうです。

ある程度外に出られるようになった今は、積極的にさまざまな場所に顔を出し、新規就農者のサポートなどに尽力しています。「宇和島には魅力的なものがたくさんある。宇和島を愛している人もたくさんいる。そういったヒト・コト・モノをつなげて、今後に活かしていくために、自分の活動が何か1つのきっかけになればうれしいです。」と熱く話してくれました。